

電子掲示板による協調学習での閲覧行動調査

A Research on Students' Reading Behavior in CSCL Using Bulletin Board System

八木 秀文[†] 喜多 敏博[†] 合田 美子[†] 鈴木 克明[†]
Hidefumi YAGI[†] Toshihiro KITA[†] Yoshiko GODA[†] Katsuaki SUZUKI[†]

[†] 熊本大学大学院 教授システム学専攻

[†] Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

要約：電子掲示板を利用した協調学習における他者発言閲覧に関する調査を行った。他者発言を多く読む人とあまり読まない人とに二分したところ、他者発言に対する捉え方も異なることが読み取れた。また、学習時に教員のコメントを欲していた学生が多く、教員にファシリテーターとしての役割も期待しているようである。多くが教員による閲覧推奨スレッド・コメントの指定があればそれを読むとしており、これによってあまり他者発言を読まない人の学習機会の逸失防止が期待される。

キーワード：協調学習, CSCL, 電子掲示板, BBS, 閲覧行動

1. はじめに

熊本大学大学院教授システム学専攻は、eラーニングによる非同期協調学習のために電子掲示板を多用する。この掲示板での学習活動については、各課題で要件は異なるので一概には言えないものの、第1筆者の学習者としての体験から全般として次のような印象を得た。

- ・ 学生間協調学習だけとなる場合や、教員からのコメントによる評価が確定しない段階で、次の課題やタスクに進むのは学習者にとって不安や困難を伴うのではないか
- ・ 他人の書き込みを多く読む人と、あまり読まない人で学習の充実度が異なるのではないか

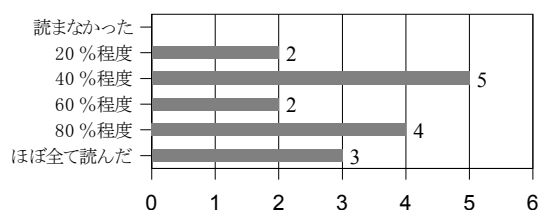
この仮説を検証するための一方法として簡易なアンケートを実施し、以下の結果を得た。

2. アンケート結果

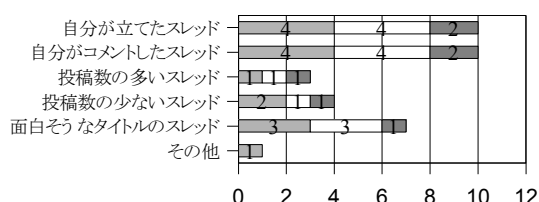
2010年5月に、修了生を含む2008年度入学生17名(第1筆者を除く)に対して無記名式のアンケート調査を行い、16名から回答を得た。

なお、問2から問9のグラフにおける3種の積み上げは、左より、問1で「20%程度」「40%程度」と回答した群(薄灰色グラフ)、「80%程度」「全てまたはほぼ全て」と回答した群(白色グラフ)、そして「60%程度」と回答した群(灰色グラフ)の順となっている。(群分けの説明は、考察部参照)

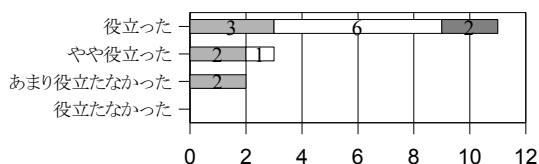
問1. どの程度、他者の書き込みを読んだか(人)



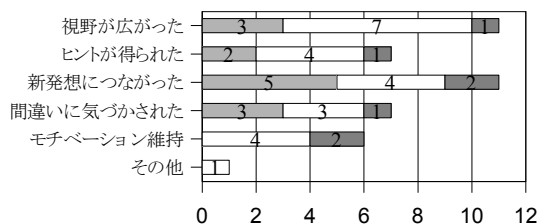
問2. 読む発言はどう選択したか(複数回答)(人)



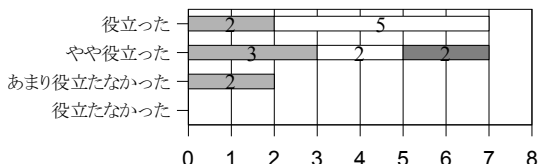
問3. 他者から自分宛のコメントは役立ったか(人)



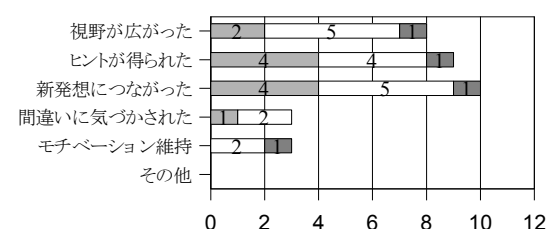
問4. 問3はどのように役立ったか(複数回答)(人)



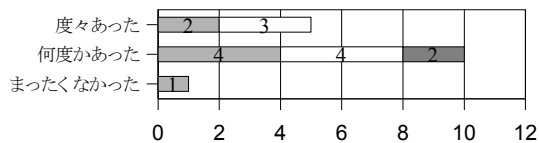
問5. 他者から他者宛のコメントは役立ったか(人)



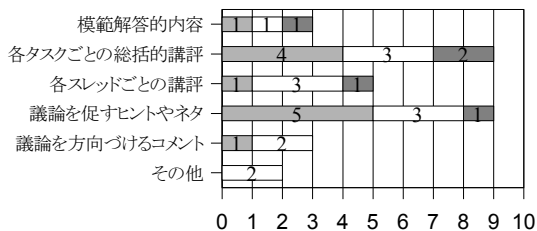
問6. 問5はどのように役立ったか(複数回答)(人)



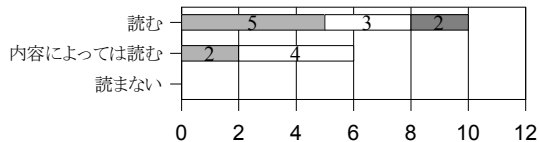
問7. 教員のコメントが欲しいことがあったか(人)



問8. 教員にどのようなコメントを期待するか(人)



問9. 教員から閲覧をすすめる推奨スレッド・コメントの指定があった場合、それを読むか(人)



3. 考察

3.1 他者発言閲覧

問1で最多回答は「40%程度」、次いで「80%程度」である。そこで「60%程度」を除き、高低それぞれ7人、すなわち「20%程度」「40%程度」の7人(以下、A群)と、「80%程度」「全てまたはほぼ全て」の7人(以下、B群)に分けて分析を行った。

問2では、ごく当然ながら自分の関わったスレッド中心に選択していることがわかるが、「その他」として「余裕があるときはすべて、余裕がないときは自分の関わったスレッド」があった。なお、A・B群で選択方法に大きな違いは見られない。

問3においては、自分宛のコメントに対して「役立った」とする回答が約7割を占め、協調学習がうまく機能していると考えられる。ただし、A群のうち2人が「あまり役に立たなかった」と回答しており、役に立たないと感じたために読まなくなってしまうという可能性も考えられる。

問5においては、他者宛のコメントに対しても「役立った」「やや役立った」とする回答で9割近くを占め、発見・偶発学習環境としても機能している可能性が考えられる。また、A・B群で違いが見られた。他者宛のコメントを「役立った」とするのは、A群が7人中2人(28.6%)であるのに対し、B群は7人中5人(71.4%)となっている。

一方、問3、問5では「あまり役に立たなかった」が各2名あるが、これはA群のみからの回答であった。また、どのように役立ったかという問4、問6における「モチベーション維持」という回答が

それぞれ6人、3人の計9人だが、内訳はB群6人、問1「60%程度」回答者から3人だった。また、問4の回答の「その他」として、「嬉しかった」がB群からあった。協調学習においては仲間とともに学習することによる動機づけも期待される⁽¹⁾が、他者発言を多く読むこととモチベーションの維持が関係している可能性も考えられる。

3.2 教員介入

問7では、9割以上が協調学習時に教員からのコメントを欲することがあったと回答している。期待するコメント内容は問8から見えるが、模範解答的な内容よりもむしろ、各タスクや課題ごとの総括的な講評、あるいは議論を促すようなヒントなど、ファシリテーターとしてのコメントを期待していることがわかる。なお、「その他」として「求めている解答に沿ったものであるか否かが不明な場合」「励まし」という回答があった。

問9では、教員による推奨スレッドまたはコメントの指定があった場合には、それを「読む」「内容によっては読む」が全回答を占め、教員による優良スレッドやコメントの推奨が歓迎されるようである。特に、A群7人中5人(71.4%)が「読む」(B群は7人中3人(42.9%))とし、閲覧が少ない人にとっては、教員による推奨によって優良発言を見逃すことがなくなり、学習機会の逸失防止とともに学習効果向上につながることを期待される。

4. まとめ

今回の調査では全般的な回答を得ようとしたため、学習者特性、学習環境との関係やタスク内容が様々にある各科目での実態までは把握できない。また、LMSの閲覧データとの照合ができておらず、実態との差異を確認できなかった。

しかし、他者発言閲覧の多い人は、他者から他者宛のコメントも学習に役立つと捉えており、閲覧の少ない人には見られない閲覧によるモチベーション維持を指摘する学習者もいた。

一方、学習時に教員からのコメントを欲することがあったとする学習者が多くいた。そして、教員による推奨スレッドやコメントの指定があった場合はそれを歓迎するようである。これについては、特に、閲覧の少ない人の方が推奨スレッドや推奨コメントを積極的に読むとしており、教員による推奨指定により、閲覧の少ない人の閲覧活動を活発化させることが可能になるとも考えられる。個別の課題によって状況は異なるが、例えば、教員が推奨スレッドを指定できる機能をLMSに追加することも面白いかもしれない。

参考文献

- (1) 鄭仁星ほか(2006) 遠隔教育とeラーニング, 北大路書房